

日本語指導者を増やすために

④ゴレスアカデミー

第1回

立教大学の田中望先生の講演
「日本で生活する外国人が日本語を学ぶということ」

第2回

トランプゲームを通して、マジョリティーとマイノリティーの立場の違い、受ける感情を学ぶ。

第3回

日本で外国人が多い地域やその理由を考え、身近な外国人の国籍や来日理由などを話し合う。また日本の外国人政策の変遷とそれと呼応した形の日本語教育やボランティア日本語教室の歴史を考える。

第4回

日本人の英語学習を例に外国人が日本語を学ぶ時にとまどう点を理解していく。次に自分たちの日本語をグループでチェックする。全国共通語かウチナーヤマト口かについての認識で多くの受講生が衝撃を受ける。

第5回

ウチナーヤマト口を共通語に言い換える問題をみんなで検討していく。

第6回

今日の主題である動詞の活用に入る。活用表を埋める問題で、ウチナーヤマト口の「しれ(しろ)」や、ら抜き言葉、受身でひっかかる人もいた。

第7回

前回の動詞の活用の形の作り方を確認してから、継続動詞・瞬間動詞について考えていく。その後問題に取り組み始めると、混乱の渦がまきおこり、あちこちでとまどい声がある。

第8回

継続動詞と瞬間動詞の復習を絵をつかって簡単にしたあと、自動詞と他動詞の違いについて学ぶ。

第9回

待遇表現である敬語について、現在5分類になっていることや、二重敬語にふれながら、ルールを学ぶ。

敬語を教えるには、自分ももっと勉強しなければならない。

外国人に教えるには、自分が理解していなければならない。

日本語ボランティアは日本語を教えるのとは違ったケアも必要だ。

動詞のルールは日本人でも大変なのに、学習者はもっと大変だろう。

日本に適応しなければ生活できない外国人にとって、ボランティアの必要性を感じた。

相手を何求めて日本語教室に来るのかを知るのが大事。

「こちらができることをできる範囲で」

第10回

けっして文法を完璧に理解しなくてもいいし、むしろ外国人が疑問に思う点から日本語のおもしろさに気づき、日本語を深く知ることができるという講師の励ましの言葉に、みな肯く。

第11回

ボランティアサークルに来る外国人はどんなことを必要としているのか、いくつかのケースについて、グループで話し合う。

第12回

ボランティアがすべてをかかえこむのではなく、何が必要なかをみんなで考えていけばいい、ということなどを講師が話す。

第13回

ボランティアの必要性ややりがいなどについて現場の声を聞き、どんな分野でも、自発性と継続性をもって行うことが大切だということを学ぶ。

たのしんでボランティアができたらいいな

「文法よりも会話」話していく中で気づいていくことが大切!

表記や発音の複雑さをどのように説明したらいいのか、実際にやってみなければわからない。

基本から順番にというだけでなく、生活の中ですぐに生かせる言葉を身につけることも大切。

可能な限り外国人の視点で「日本語」をとらえられたいと思った。

「相手にとって何が今後につながるのか」

一番のルールは自分が委ねること、目の前にいる外国人と共有すること。地心なく大好き!

「みんなが声をもち自分として生きられる街」を作っていきたいと思っています。

これほど高度なことを要求されるとは想像もしていなかった。最終的にどの程度のレベルが要求されるのか?

多文化を認め、一人の人間として対等に自分の意見を持つことが大切だと思った。

単に言葉のルールだけではなく、三ホンジンの物の考え方や「美德」などが背景にあることが、授受表現や敬語の理解を難しくしているように思う。

自分が日本語を間違っただけで使っていたことがわかり、このレベルで外国人に教えたなら申し訳ないと思った。

外国人をとりまく現状や国としての法律・対応をもっと関心をもってみたいこうと思いました。

うちなーヤマトグチをたくさん使っているのに、日本語を教えるときに気をつけなければならない、と思いました。

普段あたりまえに使っていた言葉が共通語ではないということに驚きました!

日本語指導者を増やすために

第1回

立教大学の田中望先生の講演
「日本で生活する外国人が日本語を学ぶということ」

第2回

トランプゲームを通して、マジョリティとマイノリティの立場の違い、受ける感情を学ぶ。

第3回

日本で外国語を学ぶこと、そしてそれと教育やボランティア活動とを比較する。

第4回

日本人の英語学習を例として、日本語を学ぶ時にどうやっていく。次に自分たちがグループでチェックする。ウチナーヤマトロの意識で多くの受講生が。

第5回

ウチナーヤマトロの意識の問題をみんなで。

第6回

今日の主題である動詞の活用に入る。活用表を埋める問題で、ウチナーヤマトロの「しれ(しろ)」や、ら抜き言葉、受身でひっかかる人もいた。

第7回

前回の動詞の活用の形の作り方を確認してから、継続動詞・瞬間動詞に分類していき。その後問題に取り組み、混乱の渦がまきおこる。などという声があ。

外国人に教えるには、自分が理解していなければならない。

日本語ボランティアは日本語を教えるのとは違ったケアも必要だ。

動詞のルールは日本人でも大変なのに、学習者にとってはもっと大変だろう。

日本に適応しなければ生活できない外国人にとって、ボランティアの必要性を感じた。

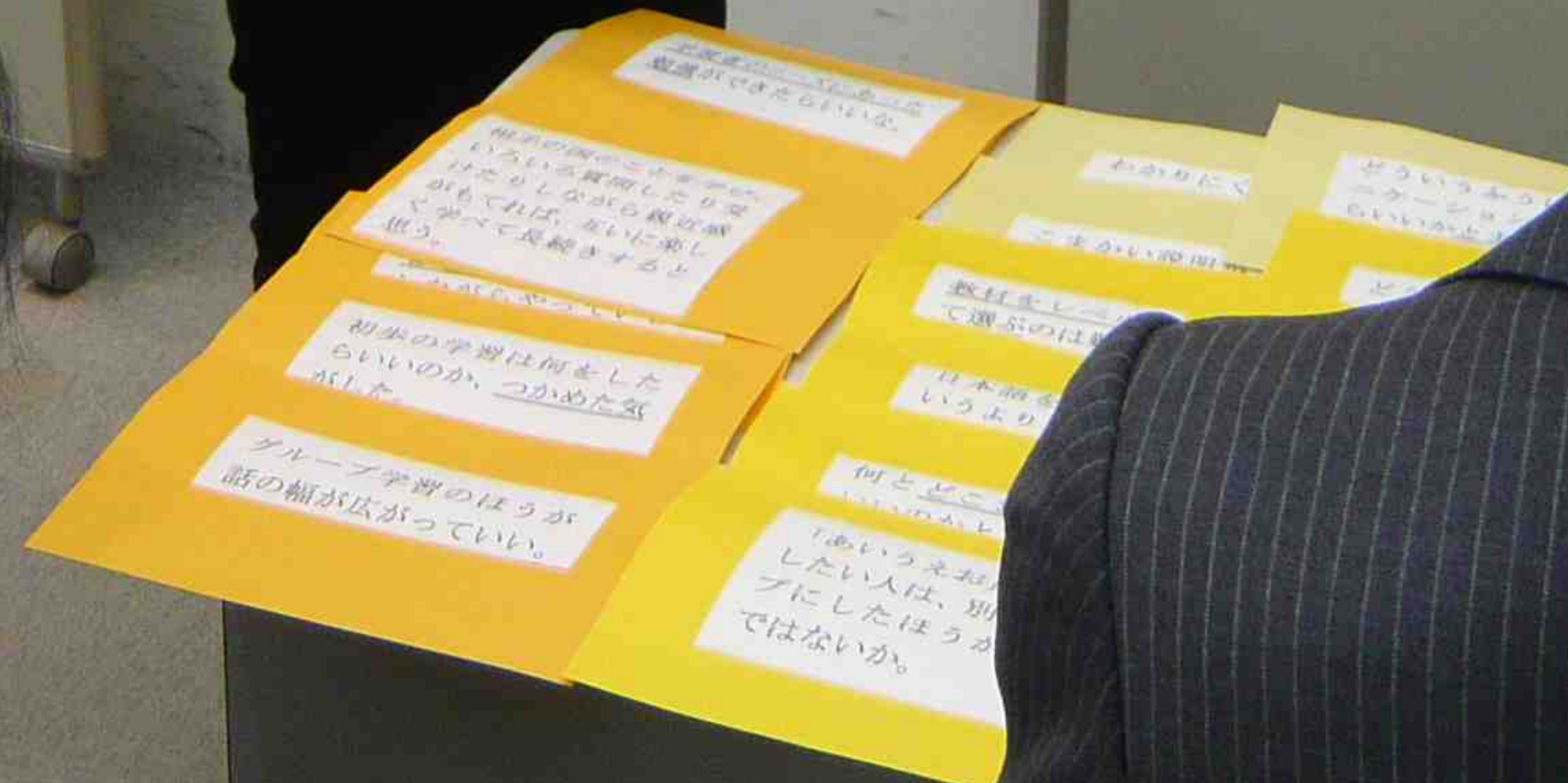
相手は何を求めて日本語教室に来るのかを知るのが大事。

「こちらができることをできる範囲で」

第11回
ボランティアはどんな人から日本に大活躍を講師の

第12回
ボランティアはどんな人から日本に大活躍を講師の

第13回
ボランティアはどんな人から日本に大活躍を講師の



日本語指導者を増

第6回

第1回

「日本語指導者を増やす」ということの意味を、日本語指導者として働く人々の視点から考えてみる。

第2回

トランプゲームを通して、リーダーとメンバーの役割の違いや、リーダーの役割を学ぶ。

第3回

日本で外国人が多い地域や、外国人の生活環境を学ぶ。身近な外国人の生活環境や、外国人の生活環境とそれと対応した形の日本語指導やボランティア日本語指導の現状を知る。

第4回

日本人の英語学習を教える外国人が、日本語を学ぶ時にどのような理解を深めていく。次に自分たちの日本語をグループでチェックする。全国共通語で多くの受講生が参加を受ける。

第5回

クイズやゲームを通して、日本語指導者の役割や、日本語指導者の役割を学ぶ。

第6回

「日本語指導者を増やす」ということの意味を、日本語指導者として働く人々の視点から考えてみる。

第7回

「日本語指導者を増やす」ということの意味を、日本語指導者として働く人々の視点から考えてみる。

第8回

「日本語指導者を増やす」ということの意味を、日本語指導者として働く人々の視点から考えてみる。

第9回

「日本語指導者を増やす」ということの意味を、日本語指導者として働く人々の視点から考えてみる。



第9回

待遇表現である「〜」の5分類になっていること、語にふれながら、ルール

敬語を教えるには、自ももっと勉強しなけ

